

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

本園では、今年度より『育ちと学び』の連続性を見通した幼児期の教育を考える」をテーマに掲げ、副題を「学びの連続性を探る」とし、研究を進めてきた。

幼稚園という教育の場は、小学校教育に続く教育の場であり、“持続可能な社会づくりの担い手を育む教育”を推し進めるにあたっては、幼稚園における教育と小学校における教育がつながっているということが大変重要であると考えます。そのため、私たち自身が幼児の生活の中の学びをきちんと捉え、捉えた学びと小学校教育との関連性を探ろうと、実践と話し合いを積み重ねた。

(1) 就学前までに幼児に育みたい力、そのための援助の基本的考えを明らかにする。

就学前までに育みたい力

- ・自ら進んで運動し、健康で安全な生活をする
- ・様々なことに好奇心や探究心をもってかかわる
- ・興味や関心を持ったことに進んで取り組む
- ・経験したことや思ったことを言葉で伝え、相手の話を聞こうとする 等

援助の基本的考え

- ・幼児の発達段階、興味、関心を捉え、環境を構成する
- ・幼児が主体的に活動できるようにする
- ・幼児一人一人の特性、内面を十分理解し、一人一人に寄り添う
- ・幼児が友達とかかわる中で、自分の思いを十分に出し、相手の思いや考えに触れることができるようにする 等

(2) “就学前に育みたい力”“援助の基本的考え”を踏まえ実践をする中で、幼児が遊ぶ姿から、幼児なりに学んでいることを見つける。

- ・フラフープや一輪車など、興味をもったことやできるようになりたいことに取り組む中で、“努力する姿勢”や“運動技能の習得”といった学びの芽を捉えることができた。
- ・自然の不思議さ面白さに興味をもったり、気の合う友達と踊りやごっこ遊びを楽しんだりする中で、“自然認識の深まり”“実感を伴った問題の予想・解決”“言語表現力（話し合う力）の高まり”といった学びの芽を捉えることができた。

(3) 幼児なりの学びと小学校教育との関連性を、小学校学習指導要領を手掛かりに探る。

11月の研究発表協議会では、保育公開を行い、多くの幼児教育関係者に参加いただき、本園の取り組みを報告した。また、1月には、本大学主催の『愛知県ユネスコスクール・ESD交流会』にて、県下唯一のユネスコスクール加盟幼稚園として、本園の取り組みを発表する機会を得た。幼児教育関係者のみならず、小学校や中学校など、異校種の先生方にも、幼稚園教育がESDに通じる教育の基盤を成していることを発信できたのではないかと思います。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）